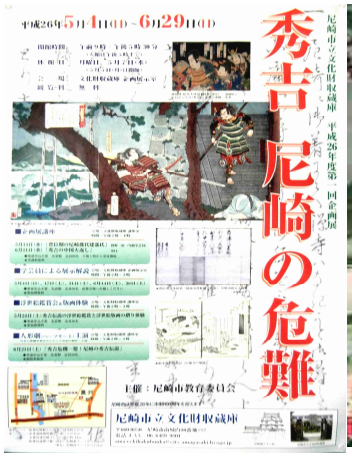
風来坊 2014
9.

尼崎市立文化財収蔵庫　平成 26 年度第一回企画展

「秀吉 尼崎の危難」展　　2014.5.16.



芳年　美談武者八景　広徳寺の晩鐘

戦国・桃山時代　岡山備中高松城を攻めていた羽柴（豊臣）秀吉は　本能寺の変　織田信長の訃報を受けて、明智光秀打倒を決意し、急拠 強行軍での「中国大返し」。　その途中　尼崎に至った時の数々の秀吉伝説。

「単騎で尼崎に至った秀吉が敵兵に襲われ、みそすり坊主に化けて難を逃れた」との伝承。

その真偽はともかくとして　尼崎の古い住人では　誰もが知る秀吉伝説の一つである。

そんな秀吉伝説にまつわる企画展「秀吉　尼崎の危難」が、新たに城内地区に移設整備された尼崎市の文化財収蔵庫の第 1 回目の企画展として開催されているという。

古い歴史を持つ尼崎ではあるが、埋蔵文化財など尼崎の収蔵文化財を総合展示される場所がなく、なかなか見られなかった。

5 年ほど前に文化財収蔵庫が南城内の旧市立尼崎高校・城内中学として使われた校舎跡へ移り、古くはあるが、広いスペースが確保され、整備も進んで、常設総合展示並びに企画展も開催されるようになっていると聞くが、訪れたことはなし。

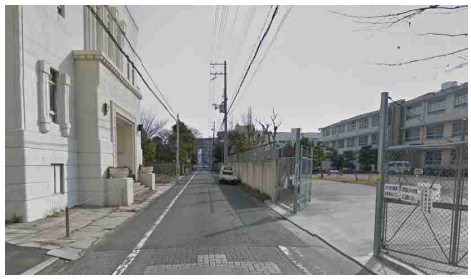
その第一回企画展「秀吉の尼崎危難」そして　尼崎から出土した埋蔵文化財の展示を見るいい機会。　尼崎が故郷の私にはうれしい企画に興味深々で行ってきました。

◎　尼崎北城内　尼崎市立文化財収蔵庫へ　旧市尼の校舎を整備して公開展示ができるようになった

阪神尼崎駅の南　東側を南北に流れる庄下川の東側が旧尼崎城のあった城内地区

5 月 16 日晴天の朝　阪神尼崎駅の南側に出る。久しぶりに吸う尼崎の空気。駅のすぐ東側、庄下川にかかる庄下橋を渡ると 10 分ほどで城内地区である。橋からはかつて尼崎城があった城内地区　そして　その南に広がる工場地帯がみわたせる。　かつて公害都市と言われた尼崎であるが、街の環境・美化整備が進み、見渡す景色そして川も本当にきれいになって、昔の景色がもう、想像つかぬ。　でも　あのごちゃまぜの街・エネルギーあふれた都市を象徴する 3 本煙突の景色が消え去ったのは本当に寂しい。

庄下橋を渡り、阪神のレンガ倉庫の横を通り抜けて、城内地区に入る。かつての尼崎城があった城内地区の再開発事業が着々と進んで　本当に静かな緑あふれる街に変貌して、二筋南の開明橋筋に出ると北西部へ移転した旧市尼高があった文化財収蔵庫である。



北城内 文化財収蔵庫のある東西の通り　開明橋筋　収蔵庫周辺　　インターネット google street view より
今は本当に静かな文教区の一角　この地区にあった高校の統合校舎整備の工事が着々と進んでいました

◎　尼崎の歴史については　尼崎市&尼崎市文化財収蔵庫のホームページに数々の懐かしい写真と共に掲載されているので、一度　ご覧ください。

◆　**尼崎市文化財収蔵庫**

http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bunkazai_0/index.html

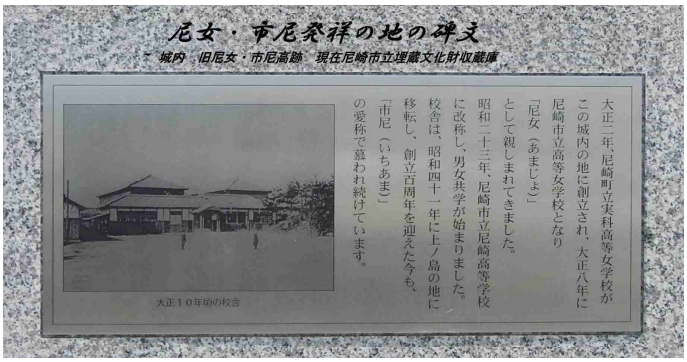
◆　**尼崎の文化財**

http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bunkazai/

以前　尼崎の埋蔵文化財は　あちこちバラバラに収蔵されていて、収蔵庫と聞くと草ぼうぼうの埋蔵文化財の一時的保管倉庫といったイメージが強く、城内に移っても旧校舎を使った保管倉庫なのだろうとずっと思っていました。
しかし、すっかりイメージが違って、旧の市尼の校舎跡とはいえ、入り口の門柱には「尼崎市立文化財収蔵庫」の門碑があり、玄関広場　校舎建物すっかり化粧直しされ、きれいな姿に。　こんなに変わったのだと・・・・

尼崎市立文化財収蔵庫玄関　元市尼の校舎玄関がそのままの姿で残っている　　2014.5.16.

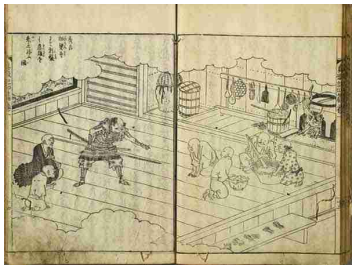
構内広場の向こうには玄関時計塔ホールを中心に東西に旧市尼の校舎が長く伸びて、その校舎の傍らには　この地がかつての「尼崎高等女学校」・「市立尼崎高校」のあった地である碑がきれいに整備され、1913 年設立の文字が刻まれていました。　創立 100 年越えなんだ。　ちなみに　市尼の前身が尼女　そして私の母校　県尼の前身が大正 12 年創立の尼崎中学で、、昨年 90 周年を迎え、両校とも尼崎市内には数多くの卒業生がいる。
市尼は北部に移転しましたが、県尼はここから国道を挟んだ北大物の狭いところにずっとあるのですが、県尼にはこんな碑がないなぁ・・・・・・・と。また、校舎も一新され、今はかつての面影はなし。
　でも、市尼の校舎　今が一番きれいなのと違うのかなぁ・・・・と半分やっかみです。

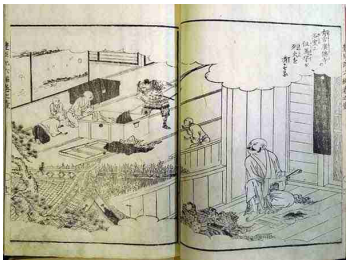


玄関脇にある尼女・市尼発祥の地の碑　1913 年の文字も刻まれていました

玄関から校舎の中に入ると、昔の教室・廊下区分がそのままに内装が整備され、古ぼけた内部のイメージなし。
収蔵庫の展示場や集会場などの公開部分が設営され、常設展示と企画展示が公開され、また集会場では市民公開講座などに使われて言いました。

◎　「秀吉　尼崎の危難展」





「秀吉　尼崎の危難」展

今回は　古い尼崎の住人は誰しも知る　秀吉伝承「秀吉　尼崎の危難」展
本能寺の変後、備中から大急ぎで、尼崎まで取って返してきた秀吉が　数多くの敵兵に遭遇し、寺に逃げて僧に化け、難を逃れたという伝説が生まれた。そして、この伝承を題材に数々の人気歌舞伎・人形浄瑠璃が生まれ、この伝承が更なる伝承を生み、数々の錦絵にも描かれる。
また、「秀吉　尼崎の危難」展では「秀吉の中国大返し」と呼ばれる史実とともに、そこから生まれた数々の伝承を描いた錦絵や数々の摺り絵本から伝承の広がりを展示して、「史実」と時代を経た「伝承」との落差の大きさをも教えてくれる。
私が幼い時から良く聞いていた話も秀吉伝説の部類の一つで、「今も尼崎寺町にある広徳寺にはその時の味噌擂り鉢と棒が残っている」と信じていました。本当はどうやら　後年の脚色伝承であったようだ。

史実は
「中国大返しの途中、秀吉が尼崎に立ち寄り、。禅寺を探し、光秀に討たれた主君織田信長のため、髪を下ろした」
ということだけだったようだ。

そこから、秀吉の立身出世人気談の中で、尼崎で秀吉が光秀軍に囲まれ、寺に逃げて僧に化け、難を逃れたという伝説が生まれ、江戸時代以降、人形浄瑠璃や歌舞伎の題材にもなって、この伝説は益々広がっていったのだろう。

「史実に残るのは　こんなちっちゃなことなのか???」と。
「伝承とはそんなもの」と簡単に片づけられるかもしれないが、今更ながら「秀吉の人気」はすごいもの。
伝承が伝承を生んでゆく。
風評もそうですが、大量の情報入手とボタン一つで　賛同を示すことができる現在のスマートフォン・IT 社会では、その勢いはもっとすさまじく、その怖さを思い知ることができる展示でもある。

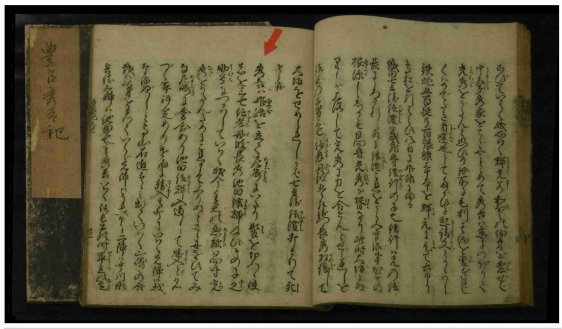
展示の内容　少し写真に撮れましたのでバラバラですが、掲載させていただきます。
また、簡単な「秀吉　尼崎の危難」展の解説パンフを収蔵庫でいただきました。　収蔵庫のホームページに内容解説掲載されていなかったので、「秀吉　尼崎の危難」理解のため、この解説パンプを掲載させていただきました。

Ⅱ　中国大返しと尼崎

天正10年(1582)6月2日未明、明智光秀の軍勢が織田信長の京都の宿所本能寺を急襲しました。信長は自ら武器を手にとり戦いますが、多勢に無勢で、やがて火を放つことを命じ自害して果てました。焼け跡から遺骸は見つからなかったといわれています。羽柴(豊臣)秀吉は毛利氏と対戦中の備中高松(現岡山市)でこの変を知りました。驚き悲しむ秀吉に対して軍師として側にあった黒田官兵衛(孝高)が光秀打倒を進言したといわれています。秀吉はすぐさま毛利氏と和議を結び、軍勢を返すことにしました。世に言う「中国大返し」の始まりです。

中国大返しのルートや日程は諸説あり確定していませんが、秀吉の軍勢は強行軍で沼城(現岡山市)を経て姫路城に戻り休息した後、6月9日に姫路を出発し、10日に兵庫、11日に尼崎に到着したと考えられています。秀吉は大坂に滞在中の丹羽長秀と神戸信孝、荒木村重の反乱後、摂津を治めていた有岡城の池田恒興に尼崎到着を知らせました。また、尼崎の禅寺で主君信長を弔うため髻を切り、打倒光秀の決意を新たにしたといいます。秀吉は翌12日に摂津富田に進み軍勢を調え、翌13日に山崎の戦いで光秀を破りました。

忍入太閤記　3冊のうち2冊
小瀬甫庵作の豊臣秀吉伝記「太閤記」の版本で、宝永7年(1710)に挿絵入りで刊行された小型横本です。展示している挿絵は、天正10年(1582)4月から始められた備中高松城の水攻めの場面を描いたものです。羽柴秀吉は織田信長の命令で、毛利氏を攻撃するため、出陣し、清水宗治が守る備中高松城を大群で包囲。秀吉は守りの堅い城を落とすため堤防を築いて足守川の水を城の周囲にあふれさせる水攻めという奇抜な作戦を取りました。



豊臣秀吉記　3冊のうち2冊
鎌倉・室町将軍と織田信長、秀吉の業績を記述した「将軍記」の内の秀吉記で、漢文4年(1664)に刊行されたものです。天正10年(1582)6月2日未明に起きた本能寺の変の知らせを聞いて急ぎ兵を返した秀吉は尼崎まで戻ってきました。本書では、到着した日付は書かれていませんが、神戸信孝や、丹羽長秀、池田恒興に使者を送って尼崎到着を伝えたことや、眼前に迫った明智光秀との対戦に備えて軍議を開いたことなどが述べられています。

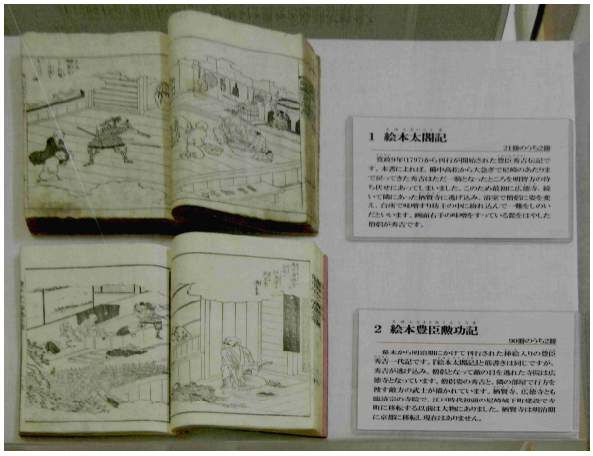
Ⅲ 尼崎の危難伝説

羽柴秀吉は中国大返しを成功させ、仇敵明智光秀を討ち破りますが、江戸時代後期に刊行され流行した秀吉伝記にはその際の尼崎での出来事として次のような「尼崎危難」の物語が紹介されています。

光秀を討つため先を急ぐあまり単騎となって武庫川辺りまでやってきた秀吉は、明智勢の待ち伏せにあい、どうにかこれをやり過ごして尼崎の寺に逃げ込みました。秀吉は浴室で僧に姿を変え、次に台所で食事の準備をしていた僧たちに紛れ込んで敵の目を逃れ、後から追いついた加藤清正ら家臣の奮戦で危機を脱した、というのです。

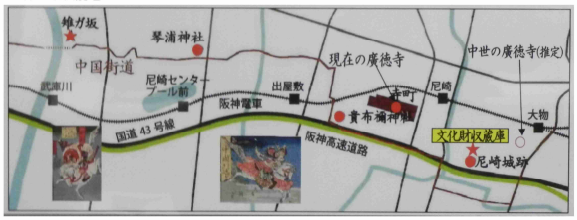
秀吉が逃げ込んだのは、当時は大物にあり、江戸時代初頭に寺町に移転した栖賢寺(現在は京都市に移転)や廣徳寺とされ、尼崎は秀吉ゆかりの地として知られるようになります。

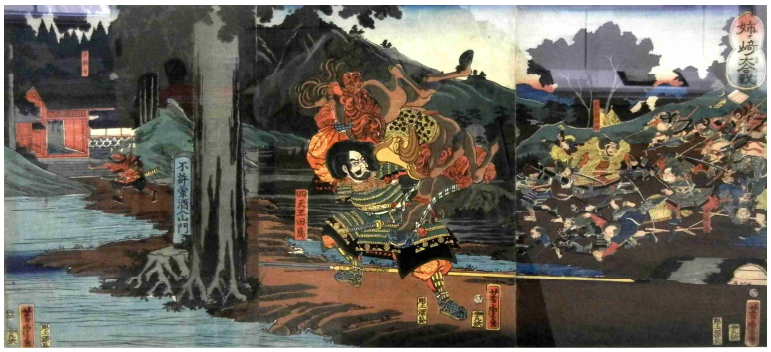
江戸時代の秀吉伝記には史実とは異なる逸話が数多く含まれており、「尼崎危難」もそのような秀吉伝説のひとつです。中国大返しで尼崎に到着した秀吉が禅寺で主君信長を弔うため髻を切ったといわれていますので、この話が核となって創作されたものと考えられます。



▲雉ガ坂伝説地

▲現在の廣徳寺





7 芳虎 姉ヶ崎大合戦

3枚続

幕末の浮世絵師歌川芳虎が描き、万延元年(1860)に刊行された錦絵です。「姉ヶ崎」は尼崎をもじったもので、秀吉の尼崎での危難を題材に描かれています。画面中央には明智方の武士四天王田島が秀吉が乗っていた馬を投げ飛ばそうとしている姿が描かれています。「四天王田島」は秀吉を待ち伏せたとされる四王天但馬守正孝のことです。秀吉は左に小さく描かれていますが、行く手の「長徳寺」は広徳寺のことです。

11 芳年 太平記尼ヶ崎合戦中国引返しの図

3枚続

月岡芳年が描き、文久3年(1863)に刊行された錦絵です。本能寺の変後、中国大返しの際に、先を急ぐあまり単騎となって尼崎まで戻ってきた秀吉が敵方の兵士の待ち伏せにあったものの持ち前の機智でしのいだという、『絵本太閤記』などの秀吉伝記で知られる尼崎危難伝説を題材としたものです。敵兵と戦う「佐藤虎之助正清」は加藤清正のことで、その後方に小さく描かれているのが秀吉です。

13 貞秀 太平記尼ヶ崎合戦

3枚続

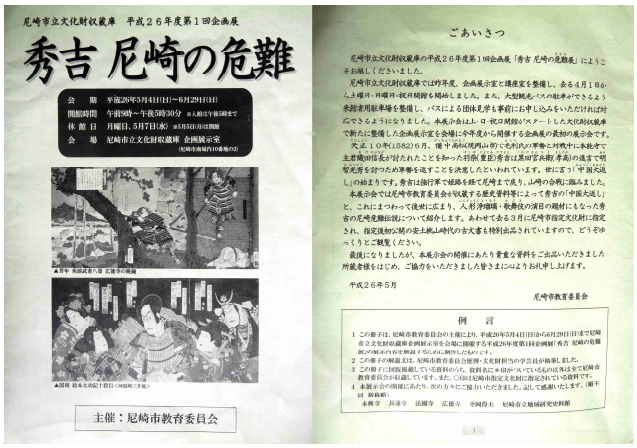
幕末から明治期に活躍した浮世絵師歌川貞秀が描いた錦絵です。加藤清正が四王天但馬守を広徳寺で討ち取る場面を描いたもので、文久元年(1861)に刊行されました。幕府の出版規制に配慮して「太閤記」は「太平記」に、また「加藤清正」は「加藤正清」、「四王天但馬守」は「四方手左司馬」に変えられています。伝説の世界では、中国大返しの際に秀吉勢と明智勢による「尼崎合戦」があったことになっています。

22 日吉丸出世の鑑（ひよしまるしゅっせのかがみ）

1枚

大坂で出版された豊臣秀吉（とよとみひでよし）の出世話の絵双六です。絵の作者国計は幕末の大坂で役者絵などを手がけていた絵師です。日吉丸の誕生から天下制覇まで35場面にわたってよく知られた秀吉の逸話が描かれています。スタートの「振出」は右下端で、時計回りにコマを進んでゆきます。振り出しから18～20番目、画面の右上部分、標題のすぐ左に「尼崎危難」伝説に関わる逸話が描かれています。

【「秀吉　尼崎の危難」展 の 解説パンフ 】　尼崎市立文化財収蔵庫



尼崎市立文化財収蔵庫　平成２６年度第１回企画展

秀吉 尼崎の危難

会　期　平成26年5月4日(日)～6月29日(日)
開館時間　午前9時～午後5時30分　※入館は午後5時まで
休 館 日　月曜日、5月7日(水)　※5月5日(月)は開館
会　場　尼崎市立文化財収蔵庫　企画展示室（尼崎市南塚口町6番地の2）

▲信長　本能寺の変（部分）

▲秀吉　中国大返し

▲関所　絵本太閤記十段目（<国芳>三枚組）

主催：尼崎市教育委員会

ごあいさつ

尼崎市立文化財収蔵庫の平成２６年度第１回企画展「秀吉 尼崎の危難展」にようこそお越しくださいました。

尼崎市立文化財収蔵庫では昨年度、企画展示室と講座室を整備し、去る４月１日から土・日曜日・祝日開館を開始しました。また、大型観光バスの駐車ができるよう来館者用駐車場を整備し、バスにより団体見学を事前にお申し込みをいただければ対応できるようになりました。本展示会は、ロ・ビロ開館スタートとした文化財収蔵庫で新たに整備した企画展示室を会場にご年度から開催する企画展の最初の展示会です。

天正１０年（1582）６月、備中高松城攻めの中で毛利氏の軍勢と対峙中に本能寺で主君織田信長が討たれたことを知った羽柴（豊臣）秀吉は講和（和議）の速さで明智光秀を討ったの事等を成すことを決意したといわれています。世にこの「中国大返し」の始まりです。秀吉は強行軍で姫路を経て尼崎まで戻り、山崎の合戦に臨みました。

本展示会では尼崎市教育委員会が収蔵する歴史資料等によって秀吉の「中国大返し」と、これにまつわって後世に伝えられ、人形浄瑠璃・歌舞伎の演目の題材になった秀吉の尼崎危難伝説について紹介します。あわせてある３月に尼崎市指定文化財に指定され、指定後初公開の栗太桃山時代の古文書を特別出品されていますので、どうぞゆっくりとご観覧（ください。

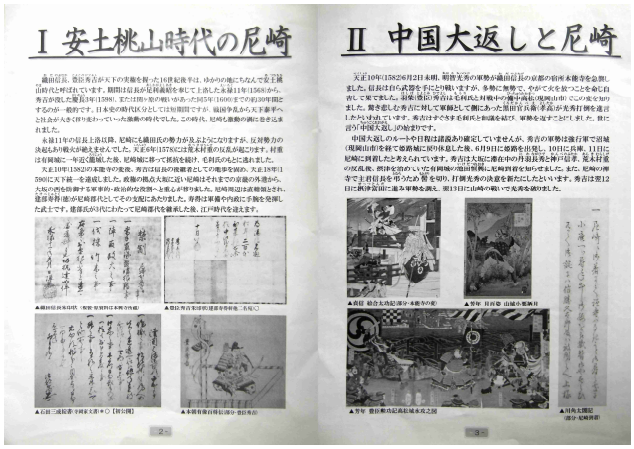
最後になりましたが、本展示会の開催にあたり貴重な資料をご出品いただきました所蔵者様をはじめ、ご協力をいただきました皆さまにはより衷心より感謝申し上げます。

平成２６年５月

尼崎市教育委員会

例　言

1 この展示は、尼崎市教育委員会の主催により、平成26年5月4日(日)から6月29日(日)まで尼崎市立文化財収蔵庫企画展示室を会場に開催する平成26年度第1回企画展「秀吉 尼崎の危難」の展示内容を解説するものであり、展示とあわせたものです。
2 この展示の解説文は、尼崎市教育委員会学芸・文化財担当の学芸員が執筆しました。
3 この展示に掲載し展示している資料のうち、資料名に＊印がついているものは尼崎市立尼崎市教育委員会が収蔵しています。また、○印は尼崎市指定文化財に指定されている資料です。
4 本展示会の開催にあたり、次の方々にご協力いただきました。記して感謝いたします。（順不同　敬称略）
本興寺　一井逸寺　法圓寺　広徳寺　寺岡得夫　尼崎市立地域研究史料館



Ⅰ 安土桃山時代の尼崎

Ⅱ 中国大返しと尼崎

Ⅲ 尼崎の危難伝説

Ⅳ 伝説の広がり

また、常設展示展では、下記に示したような区分で　尼崎市内の遺跡から出土した考古資料や、尼崎城下町復元模型などの尼崎城や城下町に関する資料、尼崎の近代工業に関する資料、そして昭和 40 年頃まで使用されていた生活用具などが簡単に展示されていました。

1 掘り出された尼崎の歴史　出土遺物等により原始古代から戦国時代までの尼崎の歴史を展示

2　尼崎城と城下町　江戸時代の尼崎城と城下町を模型や出土資料等により展示

3　工都尼崎のあゆみ　明治から現在までの工業都市としての尼崎の歴史と「尼崎市の水道のはじまり」を展示

4　ちょっと昔のくらしの道具　昭和 40 年頃までのいろいろな生活用具を展示

5　玄関ホールでのテーマ展示「ALWAYS 三丁目の夕日 64 ロケ小道具」と　「建築家村野藤吾と尼崎」

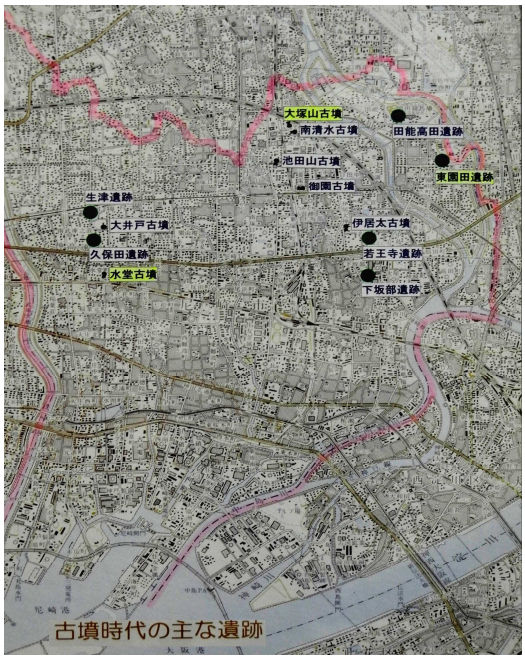
その中に、資料では知っていますが、一度見たかった古墳時代の西国への入口だった尼崎の遺構・遺物がいくつか展示されていました。

◎水堂古墳出土の副葬品　三角縁神獣鏡・鉄剣や畿内鍛冶房の始まり

◎若王寺遺跡の鉄鍛冶関連遺物(鉄滓・羽口

水堂古墳　副葬遺物

若王子遺跡出土　発掘された古墳時代のフイゴの羽口



ちょっと　残念だったのは　戦後から日本の高度成長時代にかけて日本の屋台骨を支えた「鉄の街　尼崎」を示す展示がなかったこと。　確かに　日本の大工業都市の西の代表「鉄の街」と共に「公害都市」のイメージが付きまとうことにもなったが、それも歴史。　それを伝え語らねば尼崎の歴史はないと思うのですが…

高潮から守る大防潮堤と近代的なパナマ運河方式の閘門式の港を持つ沿岸工業地帯に大谷・住金・神鋼・久保田・日新製鋼など数々の鉄鋼業や金属・機械工業の大工場そして、旭ガラスなど窯業　日紡・郡是などなど繊維工業に三菱電機などなど日本を代表する大工場が立ち並び、それらに電力を供給する大発電所が湊の入り口にどっしりと座　っている。日本の屋台骨を支えた「鉄の街　尼崎」である。

良くも悪くも　そんな時代を尼崎で過ごした人間には本当になつかしい尼崎のイメージ。

ALWAYS 三丁目の夕日もいいが、自信を取り戻せ!! 尼崎!!とも言いたい展示であった。

ちょつとおせっかい。

長年の疑問「秀吉　尼崎の危難」の伝承も　きっちり頭に入って、

半日　たっぷり尼崎の空気を吸った　尼崎北城内 WALK　でした。

開明橋から眺める庄下川周辺　　2014. 5. 16.

尼崎市立文化財収蔵庫　平成26年度第一回企画展

秀吉と尼崎の危難

平成26年5月4日(日)～6月29日(日)

開館時間　午前9時～午後5時30分
（入館は午後5時まで）

休館日　月曜日、5月7日(水)
（5月5日(月)は開館）

会場　文化財収蔵庫 企画展示室

観覧料　無料

■企画展講座

会場：文化財収蔵庫 講座室
時間：午後2時～4時

5月14日(水)「豊臣期の尼崎郡代建部氏」　横野一裕（当館学芸員）
6月11日(水)「秀吉の中国大返し」　柏上

◆事前申込不要　先着順　定員80名　午後1時から受付開始
★受講料無料

■学芸員による展示解説

会場：文化財収蔵庫 企画展示室
時間：午後2時～3時

5月4日(日)、17日(土)、31日(土)、6月14日(土)、28日(土)

◆事前申込不要　先着順　定員30名　直接会場へお越しください
★参加費無料

■浮世絵鑑賞会&版画体験

会場：文化財収蔵庫 講座室
時間：午後2時～3時

5月24日(土)秀吉伝説の浮世絵鑑賞と浮世絵版画の摺り体験

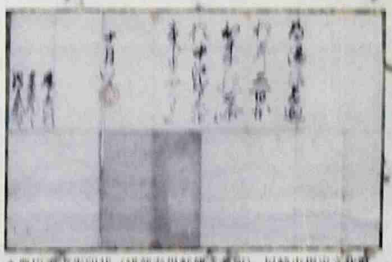
◆事前申込不要　先着順　定員30名
★参加費無料

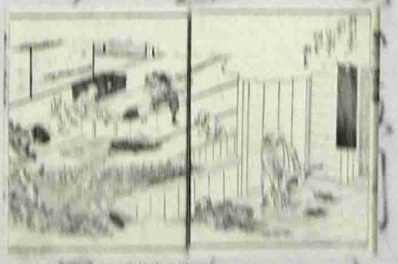
■人形劇(ペープサート)上演

会場：文化財収蔵庫 講座室
時間：午後2時～3時

6月21日(土)「秀吉危機一髪！尼崎の秀吉伝説」

◆事前申込不要　先着順　定員50名
★観覧料無料





主催：尼崎市教育委員会

尼崎市は平成28年に市制100周年を迎えます

尼崎市立文化財収蔵庫
〒660-0850　尼崎市南城内16番地の2
電話・FAX　06-6489-9801
ama-rekihakubunka@city.amagasaki.hyogo.jp

尼崎市立文化財収蔵庫　平成２６年度第１回企画展

秀吉 尼崎の危難

会　　期	平成26年5月4日(日)～6月29日(日)
開館時間	午前9時～午後5時30分　※入館は午後5時まで
休 館 日	月曜日、5月7日(水)　※5月5日(月)は開館
会　　場	尼崎市立文化財収蔵庫 企画展示室 (尼崎市南城内10番地の2)

▲芳年 美談武者八景 広徳寺の晩鐘

▲国周 絵本太功記十段目＜河原崎三升他＞

主催：尼崎市教育委員会

ごあいさつ

尼崎市立文化財収蔵庫の平成２６年度第１回企画展「秀吉 尼崎の危難展」にようこそお越しくださいました。

尼崎市立文化財収蔵庫では昨年度、企画展示室と講座室を整備し、去る４月１日から土曜日・日曜日・祝日開館を開始しました。また、大型観光バスの駐車ができるよう来館者用駐車場を整備し、バスによる団体見学も事前にお申し込みをいただければ対応できるようになりました。本展示会は土・日・祝日開館がスタートした文化財収蔵庫で新たに整備した企画展示室を会場に今年度から開催する企画展の最初の展示会です。

天正１０年(1582)６月、備中高松(現岡山市)で毛利氏の軍勢と対戦中に本能寺で主君織田信長が討たれたことを知った羽柴(豊臣)秀吉は黒田官兵衛(孝高)の進言で明智光秀を討つため軍勢を返すことを決意したといわれています。世に言う「中国大返し」の始まりです。秀吉は強行軍で姫路を経て尼崎まで戻り、山崎の合戦に臨みました。

本展示会では尼崎市教育委員会が収蔵する歴史資料等によって秀吉の「中国大返し」と、これにまつわって後世に広まり、人形浄瑠璃・歌舞伎の演目の題材にもなった秀吉の尼崎危難伝説について紹介します。あわせて去る３月に尼崎市指定文化財に指定され、指定後初公開の安土桃山時代の古文書も特別出品されていますので、どうぞゆっくりとご観覧ください。

最後になりましたが、本展示会の開催にあたり貴重な資料をご出品いただきました所蔵者様をはじめ、ご協力をいただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。

平成２６年５月

尼崎市教育委員会

例　言

1 この冊子は、尼崎市教育委員会の主催により、平成26年5月4日(日)から6月29日(日)まで尼崎市立文化財収蔵庫企画展示室を会場に開催する平成26年度第1回企画展「秀吉 尼崎の危難展」の展示内容を解説するために制作したものです。

2 この冊子の解説文は、尼崎市教育委員会歴博・文化財担当の学芸員が執筆しました。

3 この冊子に図版掲載している資料のうち、資料名に＊印がついているもの以外は全て尼崎市教育委員会が収蔵しています。また。○印は尼崎市指定文化財に指定されている資料です。

4 本展示会の開催にあたり、次の方々にご協力いただきました。記して感謝いたします。(順不同、敬称略)

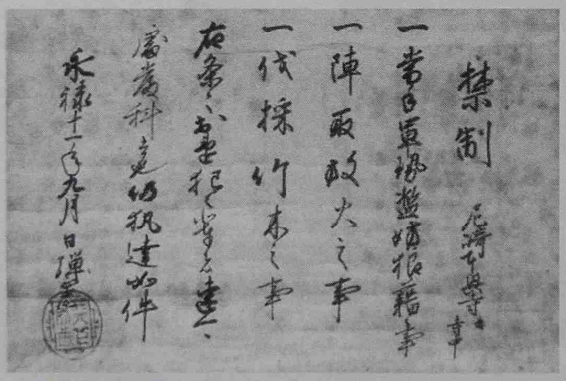
本興寺　長遠寺　法園寺　広徳寺　寺岡得夫　尼崎市立地域研究史料館

Ⅰ 安土桃山時代の尼崎

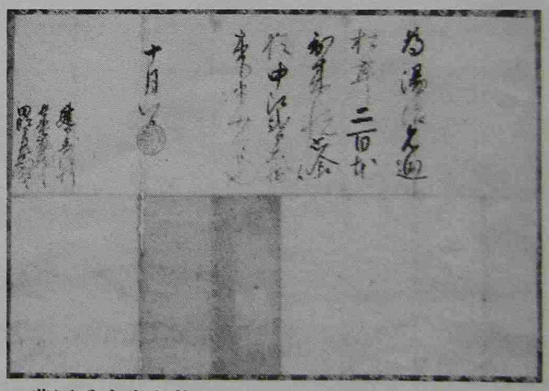
織田信長、豊臣秀吉が天下の実権を握った16世紀後半は、ゆかりの地にちなんで安土桃山時代と呼ばれています。期間は信長が足利義昭を奉じて上洛した永禄11年(1568)から、秀吉が没した慶長3年(1598)、または関ヶ原の戦いがあった同5年(1600)までの約30年間とするのが一般的です。日本史の時代区分としては短期間ですが、戦国争乱から天下泰平へと社会が大きく移り変わっていった激動の時代でした。この時代、尼崎も激動の渦に巻き込まれました。

永禄11年の信長上洛以降、尼崎にも織田氏の勢力が及ぶようになりますが、反対勢力の決起もあり戦火が絶えませんでした。天正6年(1578)には荒木村重の反乱が起こります。村重は有岡城に一年近く籠城した後、尼崎城に移って抵抗を続け、毛利氏のもとに逃れました。

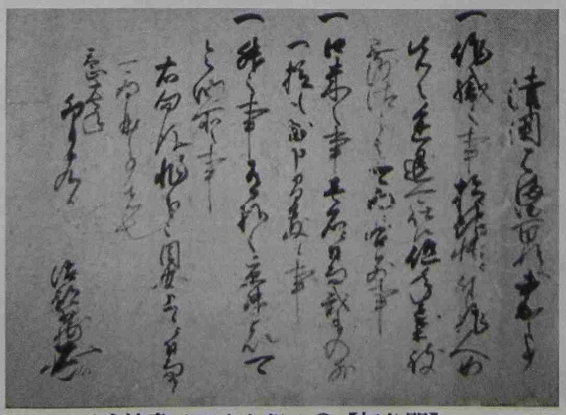
天正10年(1582)の本能寺の変後、秀吉は信長の後継者としての地歩を固め、天正18年(1590)に天下統一を達成しました。政権の拠点大坂に近い尼崎はそれまでの京畿の外港から、大坂の西を防御する軍事的・政治的な役割へと重心が移りました。尼崎周辺は直轄領とされ、建部寿得(徳)が尼崎郡代としてその支配にあたりました。寿得は軍備や内政に手腕を発揮した武士です。建部氏が3代にわたって尼崎郡代を継承した後、江戸時代を迎えます。



▲織田信長朱印状〈複製・原資料は本興寺所蔵〉



▲豊臣秀吉朱印状(建部寿得軒他二名宛)○



▲石田三成掟書(寺岡家文書)＊○【初公開】

▲本朝有像百将伝(部分・豊臣秀吉)

Ⅱ 中国大返しと尼崎

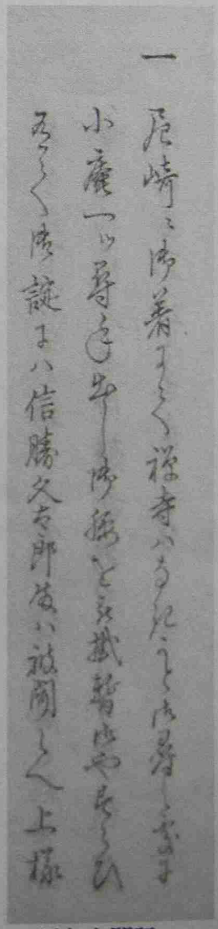
天正10年(1582)6月2日未明、明智光秀の軍勢が織田信長の京都の宿所本能寺を急襲しました。信長は自ら武器を手にとり戦いますが、多勢に無勢で、やがて火を放つことを命じ自害して果てました。羽柴(豊臣)秀吉は毛利氏と対戦中の備中高松(現岡山市)でこの変を知りました。驚き悲しむ秀吉に対して軍師として側にあった黒田官兵衛(孝高)が光秀打倒を進言したといわれています。秀吉はすぐさま毛利氏と和議を結び、軍勢を返すことにしました。世に言う「中国大返し」の始まりです。

中国大返しのルートや日程は諸説あり確定していませんが、秀吉の軍勢は強行軍で沼城(現岡山市)を経て姫路城に戻り休息した後、6月9日に姫路を出発し、10日に兵庫、11日に尼崎に到着したと考えられています。秀吉は大坂に滞在中の丹羽長秀と神戸信孝、荒木村重の反乱後、摂津を治めていた有岡城の池田恒興に尼崎到着を知らせました。また、尼崎の禅寺で主君信長を弔うため髻を切り、打倒光秀の決意を新たにしたといいます。秀吉は翌12日に摂津富田に進み軍勢を調え、翌13日に山崎の戦いで光秀を破りました。

▲貞信 絵合太功記(部分・本能寺の変)

▲芳年 月百姿 山城小栗栖月

▲芳年 豊臣勲功記高松城水攻之図



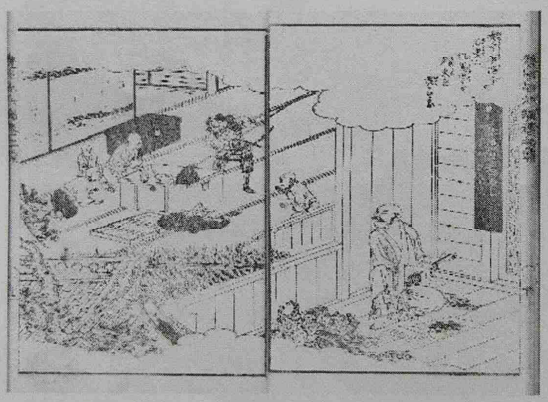
▲川角太閤記
(部分・尼崎到着)

Ⅲ 尼崎の危難伝説

羽柴秀吉は中国大返しを成功させ、仇敵明智光秀を討ち破りますが、江戸時代後期に刊行され流行した秀吉伝記にはその際の尼崎での出来事として次のような「尼崎危難」の物語が紹介されています。

光秀を討つため先を急ぐあまり単騎となって武庫川辺りまでやってきた秀吉は、明智勢の待ち伏せにあい、どうにかこれをやり過ごして尼崎の寺に逃げ込みました。秀吉は浴室で僧に姿を変え、次に台所で食事の準備をしていた僧たちに紛れ込んで敵の目を逃れ、後から追いついた加藤清正ら家臣の奮戦で危機を脱した、というのです。秀吉が逃げ込んだのは、当時は大物にあり、江戸時代初頭に寺町に移転した栖賢寺(現在は京都市に移転)や廣徳寺とされ、尼崎は秀吉ゆかりの地として知られるようになります。

江戸時代の秀吉伝記には史実とは異なる逸話が数多く含まれており、「尼崎危難」もそのような秀吉伝説のひとつです。中国大返しで尼崎に到着した秀吉が禅寺で主君信長を弔うため髻を切ったといわれていますので、この話が核となって創作されたものと考えられます。



▲絵本豊臣勲功記(部分・僧侶に姿を変えた秀吉)

▲芳虎 姉ヶ崎大合戦(部分・逃げる秀吉と追う敵の武士)

▲貞秀 太平記尼ヶ崎合戦

Ⅳ 伝説の広がり

江戸時代後期の秀吉伝記の流行とともに、「尼崎危難」伝説は広く知られるようになり、人形浄瑠璃・歌舞伎に取り入れられ、浮世絵などの絵画作品の画題としても好まれました。

寛政11年(1799)7月に大坂豊竹座で初演された人形浄瑠璃「絵本太功記」は江戸時代後期に刊行され好評を博した秀吉伝記の『絵本太閤記』などを下敷きに創作された芝居です。明智光秀の謀反から没落までの13日間を一日一段で描き、「発端」を加え、全十四段で構成されています。山場は光秀の母皐月がわび住まいする尼崎を舞台に光秀一家の悲運を描く十段目「尼ヶ崎の段」で、歌舞伎では十段目だけが上演されるようになります。

略して「太十」と通称され、この段は浮世絵に多数描かれており、人気の芝居であったことがわかります。また、歌舞伎の人気芝居の場面や風景などを立体的に組み立てて遊ぶおもちゃ絵「立版古」(「切組燈篭」とも)が、江戸時代後期から大正期ごろまで流行しますが、立版古にも「太十」の場面を取り入れたものが作られています。

▲豊国（三代） 絵本太功記十段目

▲極しん板切組燈篭絵本太功記十段目(復元組上げ)

▲国周 太功記十段目光秀

▲芳年 武智光秀

▲周延 絵本太功記十段目

展示資料一覧

No.		展示期間 前期	展示期間 後期	資料名	点数	備考
I	1			信長公記	2 冊	
	2			本朝有像百将伝	2 帖	
	3			織田信長禁制(本興寺文書)〈複製〉	1 幅	
	4			織田信長禁制(長遠寺文書)〈複製〉	1 幅	
	5			重編応仁記	2 冊	
	6			武将肖像画模本	1 巻	
	7			木下秀吉書状(本興寺文書)〈複製〉	1 幅	
	8			荒木村重書状(長遠寺文書)〈複製〉	1 幅	
	9			国芳 太平記英勇伝 荒儀摂津守村重	1 枚	
	10			豊臣秀吉朱印状(建部寿得軒他二名宛)○	1 幅	市指定
	11			羽柴秀吉朱印状	1 幅	
	12			増田長盛定書(守部村文書)	1 通	
	13		*1	石田三成掟書(寺岡家文書)＊○	1 通	市指定 初公開
	14		*2	増田長盛折紙(寺岡家文書)＊○	1 通	市指定 初公開
	15			忽入太閤記	2 冊	
	16			芳形 真柴七雄士集会	3 枚	
	17			芳年 真柴久吉公名護屋陣先手諸将繰出之図	3 枚	
	18			貞秀 真柴久吉播州発向之図	3 枚	
	19			豊宣 太閤記新撰寿語禄	1 枚	
	20			豊宣 新撰太閤記 佐々成政さらさら越え	2 枚	
	21			歴史双六秀吉出世かがみ	1 枚	
	22			日吉丸出世の鑑	1 枚	
	23			芳虎 大功記出世双六	1 枚	
II	1			忽入太閤記	2 冊	
	2			豊臣秀吉記	2 冊	
	3			芳年 豊臣勲功記 高松城水攻之図	3 枚	
	4			木下諸将中国出陣道中之図	1 枚	
	5			明智軍記	2 冊	
	6			川角太閤記	2 冊	
	7			貞信 絵合太功記	3 枚	
	8			貞信 絵合太功記	3 枚	
	9			絵本太閤記	2 冊	
	10			絵本豊臣勲功記	2 冊	
	11			芳年 太平記尼ケ崎合戦中国引返しの図	3 枚	
	12			芳年 英雄五行之内尼ケ崎合戦	3 枚	
	13			漫画日吉丸出世双六	1 枚	
	14			芳虎 山崎大戦之図	3 枚	
	15			芳年 尼崎大合戦武智主従討死之図	3 枚	
	16			芳年 月百姿 山城小栗栖月	1 枚	
III	1			絵本太閤記	1 冊	
	2			絵本豊臣勲功記	1 冊	
	3			尼ヶ崎危難	1 冊	
	4			豊臣秀吉譜(将軍家譜)	1 冊	
	5			摂津名所図会	1 冊	
	6			摂陽群談	1 冊	
	7			芳虎 姉ケ崎大合戦	3 枚	